



# Weekly Report

2024-25



60<sup>th</sup>  
Anniversary

創立/1965年5月22日  
例会日/毎週木曜日 PM12:30~  
会場/江南商工会館1F 大ホール  
江南市古知野町小金112  
0587-54-8132

事務局/江南商工会館 別館1F  
TEL/0587-55-6554  
FAX/0587-59-7720  
URL/https://www.konan-rc.com  
Mail/konanrc@beach.ocn.ne.jp  
会長/南村 朋幸 幹事/三輪 慎一郎 会報委員長/横山 史明



2024年(令和6年)12月 5日(木) 晴れ 第2820回(当年度第17回 例会)

点 鐘

会長 南村 朋幸君

司 会

SAA 岩田 静夫君

ロータリーソング斉唱

「奉仕の理想」  
ソングリーダー 猪子 明君

四つのテスト斉唱

— 言行はこれに照らしてから —

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

会長挨拶

会長 南村 朋幸君



皆様、こんにちは。

まずは、先日行われた60周年記念事業第1弾の橋下徹氏講演会においては、多くのメンバー皆様にご参加下さりありがとうございました。お陰様で無事大過なく終えることが出来ました。当初は心配していたチケット販

売に関しても、メンバー皆様のご協力の賜物で完売。来場者数も概ね 1,350人と多くのご来場を賜りました。エンドポリオに関する募金も、入場料の約650,000円と伊藤実行委員長のインパクトのあるお話のお陰で、当日の募金箱が約20万円、そして、橋下徹先生からも最後の最後に11,000円の募金をいただきインパクトを与えて戴きました。

私の中では、終了後の打ち上げ会も重要なポイントでありまして、山崎委員長のトイトイで行いましたが皆さんの終始笑顔での歓談姿が何よりも嬉しく感じました。この第1弾については天気も味方され、正に大成功と言ってもいい盛況ぶり、何より市民の皆様にご大きくロータリーを知って頂く貴重な機会とすることができました。皆様、本当にありがとうございました。

さて、話は変わりますが、本日、商工会議所の正副会頭で年末の恒例になっております「江南警察年末特別警戒への慰問」に行っていました。

谷口署長さんといろいろなお話をさせて頂いた一部をご紹介させて頂きます。

江南署の管轄はご存知の通り江南市・岩倉市・大口町なのですが、その管内においての犯罪発生事例についてお話を聞きました。

つい最近らしいですが、管内で自動車盗があったようでレクサスのLXという1,500万を超える高級車が盗難にあったそうで、なんとシャッター付きのカーポートでしかもハンドルロックもしていた状態なのに綺麗に盗られていたそうです。

また、最近でもまだ被害が出ている特殊詐欺ですが、昨年の被害額が約4千万だったのに対し、なんと今年度の現段階で1億を超えたそうです。この江南署管内だけです。

あれだけ報道等で注意喚起をしているにも関わらずいまだに被害が出て、しかも増加しているというのは、そ

れだけ相手も巧妙になってきているということになりますので、余程気を付けなければならないと感じました。皆様も年末に向けてこういった犯罪も増加傾向にあるようですので、くれぐれもお気を付けください。次回は、江南ロータリークラブの総会の日になります。関連で戦略特別委員会の進捗について会長挨拶にてお話ししたいと思います。それでは本日もよろしくお願い致します。

**ゲスト及びビジター紹介**

米山奨学生 カオ リ イエン ニー さん



愛知友愛 RC 幹事 小田 純也 様



**米山奨学金授与**



幹事報告 -別紙- 幹事 三輪 慎一郎君

出席報告 委員 林 庸介君

会員数	出席者数	欠席者数	出席率
48名	39名	9名	82.98%

ニコボックス 委員 林 庸介君

○本日も参加させていただき、ありがとうございます。11月24日(日)の橋下徹さんの講演会の主催もお疲れさまでした。今年は色々な行事があるかと思いますが、お身体には気をつけてお過ごし下さい。

愛知友愛 RC 小田 純也様

○天然寺／お茶を学んで／ノミニーに行こう  
本日の卓話、宜しくお願い致します。

南村 朋幸、永田 広光、三輪 慎一郎、北畑 祐二 各君

○ニーちゃんの元気な様子何よりです。近藤さんの卓話楽しみにしています。

倉知 正憲君

○本日、卓話をさせていただきます。宜しくお願いいたします。

近藤 道磨君

○本日、48才となりました。両親に感謝です。

田中 健君

○米山奨学生カオ リ イエン ニーさん、ようこそ江南ロータリークラブへ！

愛知友愛 RC 幹事 小田純也様 ようこそ江南ロータリークラブへ！

近藤道磨君

本日の卓話、宜しくお願い致します。

川崎 良一、松岡 一成、庄田 元久、古田 嘉且、富永 典夫、杉浦 賢二、沢田 昌久、岩田 静夫、長瀬 晴義、波多野 智章、中村 耕司、富田 清孝、木本 寛、岩田 進市 各君

卓話

近藤 道磨君

「茶の湯 よもやま話」



茶道というと、表千家、裏千家といった名前を聞かれたことがあると思います。この千家の祖先である千利休という人物が織田信長や豊臣秀吉の時代にいました。茶道は千利休という人によって体系付けられ、戦国武将たちがこぞって茶の湯を楽しんでいました。

利休は信長、秀吉に仕え、茶の湯を教え、多くの戦国武将からも師として仰がれる存在でした。まさに戦国の世は、絶えず戦があり、武将にとって明日の命も分からない、いつ命を落とすかもしれないという殺伐とした世の中で、茶室で喫するお茶は一時の心の平安を味わう貴重な時間であったのかもしれませんが。とにかく、乱世の世の中で利休のお茶は大流行しました。

その後江戸時代、明治、大正、昭和と盛んになって現代まで脈々と続いております。現代では松下幸之助とか財界のリーダーが茶道に親しんでいたり、お茶を習っているビジネスパーソンが増えていると聞きます。

茶の湯を行うにあたり「利休七則」という利休の教えがあります。おもてなしの心構えなのですが、これは茶の湯、茶道に限らず、日頃の生活、ビジネスにも役立つ心得だと思います。

### 利休七則

茶は服のよきように点て

炭は湯の沸くように置き

花は野にあるように

夏は涼しく、冬は温かに

刻限は早めに

降らずとも傘の用意

相客に心せよ

「夏は涼しく、冬は温かに」

今年は夏が非常に暑く、5月くらいから10月頃まで酷暑でした。かと思えば、このところの急な冷えようは、日本の四季はどうなってしまったんだろうと思ってしまいます。「夏は涼しく」夏はいかにも涼しいように、「冬は温かに」冬はいかにも温かくなるようにという教えがあります。夏は暑いですので、少しでも涼しくなるように、冬は寒いですので少しでも温かくなるようにして下さいというのです。今はエアコンがあり、夏は冷房で冬は暖房で快適に過ごせますが、昔はそんな物はありませんので、いろいろ工夫を凝らして四季を過ごしてきました。

茶の湯をする時、抹茶を点てるためにお湯を沸かします。お湯を沸かすのに炭と釜を用いるのですが、季節によって「炉」といって畳の角を囲炉裏のように切ってお湯を沸かす方法と「風炉」という畳の上に置いて湯を沸かす方法と二つの方法があります。

今、12月は「炉」を使います。炉に炭を入れると暖房器具のように部屋が暖まります。炉の位置は、客に近い位置にあります。火を囲むように座ってお茶を頂きます。もう一つの「風炉」は湯を沸かすのに火を使うので少しでも客から遠い位置に置きます。暑い時期に暑さを感じる火を少しでも感じさせないようにする配慮です。寒い時期は火を近くにして暖かさを感じ、暑い時は火を遠ざけて暑さを和らげるようにするのです。

お茶の世界では、11月から4月頃までは炉を使用し、5月から10月頃までは風炉を使用します。炉を使う11月から4月と言っても寒さは違いますがね。極寒の寒さか

ら春の暖かさを感じる頃まで炉を使っているのですから工夫が必要です。例えば、極寒の頃は炉に架ける釜は大きな口の開いた広口釜を用います。蓋を開けた時、湯気が大きな口から立ち上がる様子は、見ていると暖かさを感じます。暖かさの演出です。

4月にもなると日ごとに暖かさが増してきます。このような時期に極寒の頃と同じよう

な広口釜を使っていると、少し暑苦しい感じがしますね。こんな時期には「釣釜」を使うことがあります。天井から鎖を垂らしそこに釜を吊す。釜がゆらゆら揺れるので、その風情に風を感じ、炉でも火の熱さを和らげる感覚になります。また、「透木釜」といって、羽根の付いた釜を使って炉の炉壇に架け、炉の中の炭を見えなくすることもあります。火が見えないので、暑さを感じないようにする工夫です。

風炉の時期である5月から10月でも酷暑の時期から涼しい時期と気温が随分違います。普通、風炉釜を置く場所は点前をする人の左側、つまり客の位置から遠ざけて置きます。その右側に水を入れた水指を置きます。この水は湯の温度調節をしたり、釜の湯の水を補給したりするためにあります。

夏の暑い時期は水指の口の広い器を使います。客から見て広い器の中の水がよく見えます。面積の広い器に張ってある水を見て涼しさを感じてもらおうという設えです。10月ともなると、少し肌寒い日も出てきます。半袖より長袖がいいなあ、上にすこし羽織ろうかと言う時期に、「中置き」という点前があります。「中置き」とは風炉を畳のど真ん中に置くということです。風炉は暑さを感じさせないように湯を沸かす道具ですが、それでも火を使っているから暖かさはあります。それを少しでも客に近づけて暖かさを感じてもらおうという配慮です。逆に水の入った水指は客から一番離れた壁側に置きます。冷たさ、冷やかさを感じる水を客から離れたところに置くことで少し寒さを感じないようにとの配慮です。

現代はエアコンで年中、快適に過ごせますが、このように茶室の中が火や水の位置の工夫で、少しでも客に快適にしてもてなしてくれている心意気がありがたいですね。相手を大切に迎える心です。

また、お茶を飲む時、手に取って口をつけて飲む抹茶茶碗も季節によって替えます。年中、同じ茶碗でもいいのですが、冬の寒い時期は細長い茶碗で冷めにくくし、温かいお茶を飲むことができます。逆に、夏の暑い時期はお茶が冷めやすい形状の平茶碗を使います。

「花は野にあるように」

茶室に入りますと、床の間に花が飾られています。季節によって様々な花が咲きます。花から四季折々の季節を感じます。今は、パーティとか何か催し物があると、色とりどりの豪華な花が沢山盛られて飾られます。胡蝶蘭とか結構長い期間咲き続ける花が使われます。しかし、茶室ではずっと長く咲き続ける花よりも、どちらかというと、短くすぐに散ってしまうような花を好みます。しかも沢山の盛って生けるのではなく、数少なくして花入に入れます。「生ける」ではなくて「入れる」のです。変に造作しません。自然のままです。「花は野にあるように」入れるのです。そこにその季節にしか咲かない花

を入れます。一日花、一日しか咲かない花などが床の間に飾ってありますと、茶室に入った時、今この時間にしか咲いていない花を見て、わざわざこの日のためにこの花を茶室に飾ってくれたんだと感動をしますね。造花とか、ブリザードフラワーと言った全く枯れない花ですと、これはいつも綺麗でいいのですが、1年中変わらず季節感を感じることができませんね。やっぱり生きている花、瑞々しい花がいいですね。茶室には花のない時など、枯れ枝を飾ることもあります。枯れ枝からその季節を感じることができます。

秀吉と利休の逸話に「朝顔の茶事」という話が伝わっています。利休の茶室の露地、庭ですね、露地に朝顔が見事に咲きまして、またそれが、たいそう綺麗であるという噂を秀吉が聞きました。是非とも見に行きたいものだ、利休に「朝顔の茶事」「朝顔を愛でてお茶を飲む」という茶会を所望されました。約束の日、秀吉が利休の屋敷に着き、露地に入って見ると、一面に朝顔の花が咲き誇っている・・・と思ったら、一つも咲いていない。露地には花など全くない景色なんですね。朝顔が見事に咲いたと言っているのに、何で花が咲いていないのだと不満に思いつつ露地を歩き、茶室に来ます。「利休の奴、嘘をついたな」などと思いながら、茶室のにじり口、にじり口というのは茶室に入る入口が約70センチ四方の大きさで頭を下げ膝を曲げて部屋に入るんですが、そのにじり口をくぐると目の前の床の間に、今開いたばかりの一輪の大輪の朝顔が床の間の壁の中央に浮かび出ているのです。薄暗い茶室の床の間の土壁にたった一輪、たった一輪ですよ、かすかな光の中に浮かび上がっている様子を想像してみてください。露地に沢山咲き誇っていると思ってきたのに、一輪も咲いておらず、にじり口をくぐったら今朝咲いたばかりの瑞々しい大輪の朝顔が自分を迎えてくれた。これは感動すると思えますね。

利休は秀吉が茶事に訪れる朝に、朝顔の花、つぼみまでも全部摘み取ってしまったのです。そしてたった一輪、床の間に飾った。すごいプロデュースです。秀吉はこの利休の演出に一本やられたと感動したそうです。「茶は服の良きように点て」

抹茶は飲む人が飲みやすいように茶を点てようということですが、相手の気持ちを察して冬の寒い時はアツアツのお茶を出すとか、喉が渇いておられるようなら大ぶくにして差し上げるとかといったことです。飲む人にとってよい加減であるということ。自分の理想や思考を押しつけず、飲む人がどんなお茶を点てると喜ぶかに気を配りなさいという意味です。

「炭は湯の沸くように」

炭は湯の沸くように・・・。今はガスコンロとか IH、湯沸かしポットがあるので炭を使うことはありませんが、以前は炭で湯を沸かしていましたから、炭の置き方並べ方で湯の沸き方も変わりました。お茶の点前をすると、炭点前という客の前で新たに炭を次ぐという作法がありますが、これが難しい。へたに次ぐと炭に火が付かず消えてしまい、お湯が沸かず、ぬるいお湯になってしまうことがあります。うまく次ぐと釜の湯がしっかり沸いてきます。お湯が沸いてくると、静かな茶室の中では沸く音の変化

が楽しめます。シュンシュンとかジリジリとか・・・。この沸く音が松の葉に風が当たると葉っぱがこすれて、サラサラとかザラザラと言った音と似ていることから、釜でお湯の沸く音のことを「松風」と言うことがあります。風流ですね。この「炭は湯の沸くように」という教えは、ビジネスにも当てはまりますが「事前の準備や見えない用意をしっかりとしておこう」ということです。

「刻限は早めに」

時間にゆとりを持ちなさいということですが、単に時間を守りなさいと言うことを説いているわけではありません。そこには、相手の時間を尊重することが大切であり、そのために時間にゆとりを持って行動しなさいという意味が込められています。これは時間のことをいいながらも、精神的な余裕のことを言っていると思います。

「降らずとも傘の用意」

雨が降らなくても、傘を用意しようということ。不測の事態にも十分に備えておくことの大切さを説いています。「相客に心せよ」

茶道では主(ホスト)と客(ゲスト)、または客同士でしばしば礼や挨拶をします。お菓子や、お茶をいただく時に隣の人に「お先に」と声を掛けます。菓子器や、茶碗を頂く時、押し頂いて感謝を表します

利休七則に書かれている内容はどれも当たり前のことですが、この当たり前のことをきちんと行うことはなかなか難しいものですね。

仏教の話ですが、中国、唐時代に白樂天と言う人が鳥窠道林禪師というお坊さんに「仏法の真髓を教えてください」とお願いしました。すると道林禪師は「諸悪莫作 衆善奉行」と答えました。「良いことは進んで実行し、悪いことはしないように」という意味です。白樂天は不興げに「そんなことは3才の童子だって知っています」と言いました。道林禪師は「3才の童子が言うことができても、80才の老翁も実行することができないのだ」と一喝したそうです。

わかりきったことが、当たり前のことが、いざ実行となるとできない。わかりきったことを実行しようと努力することが大切なんですね。

茶道の精神を表す禅語として「和敬清寂」という言葉があります。

「和」は お互い仲良くする

「敬」は お互い敬う リスペクトする。

「清」は 心を清らかにする

「寂」は どんな時も動じない

これはロータリークラブで活動するロータリアンにも当てはまると思います。

裏千家の家元であった千玄室さん、御歳101才で、ロータリアンですが、「和敬清寂」お茶の精神について話しておられます。

「和は『平和』 敬は『敬い合う』慇懃無礼ではなく心から尊敬し合う。ロータリーのバッジをつけた者同士ならば、名刺を出さなくても手を振り合おう、肩をたたき合おうということを実行できなければならないと思う。ロータリーはそういう一人一人の人格を認める場所だと考えている。和し、敬い合い、そして、清は『清らかな気持ち』 寂は『気持ちを落ち着かせる』仕事から離れて一ロータ

リアンとして心の安定を図る場であるなら素晴らしいこと  
だと思う。」

時折、拙宅でお茶会を開いておりますが、気軽に参  
加できる会ですので、機会がありましたら脚を運んで覗  
いてみてください。

点 鐘

会長 南村 朋幸君

本日の食事



会報掲示板



My ROTARYの登録はこちら

※初めての方は  
アカウントを作成してください。  
※アカウントがある方は  
ログインをご覧ください。



ROTARY 2760

アプリダウンロードはこちら



江南 RC 会報 YouTube

チャンネル登録はこちら

写真等ございましたら会報までお知らせください。

(担当 早川 一三)

中

日

癸

辰

2024年(令和6年)12月7日(土曜日)

尾張 16

尾張版

## ポリオ根絶へ募金で支援



募金に協力する橋下さん(左)=江南市のHome & nicoホールで (江南RC提供)

江南RCが寄付へ橋下弁護士も協力  
江南ロータリークラブ (RC)の創立60周年記念  
講演会で、ポリオ(小児ま  
ひ)根絶に向けた募金活  
動が行われ、20万6593  
円が集まった。講師を務  
めた弁護士橋下徹さん  
も協力。講演会チケットの

収益57万4250円と合  
わせ、計78万843円をポ  
リオプラス基金に寄付す  
る。  
講演会は11月24日に江  
市北野町のHome & ni  
coホール(市民文化会  
館)で開催。橋下さんは  
「次世代のために今できる  
こと『未来への鍵』と題  
して講演し、定員1400  
人の大ホールは、ほぼ満席  
となった。  
世界のRCではポリオ根  
絶に向け、ワクチン接種な  
どの支援に取り組んでい  
る。江南RCの南村朋幸会  
長は「われわれの思いが多  
くの市民に伝わり、共感を  
得られたことに心から感謝  
したい」と話した。  
(近藤晶)